記事

Toshihiko Minamoto · 2021年9月28日 3m read

Open Exchange

DSTIMEでデータを同期する

Cachéでのデータ同期については、オブジェクトとテーブルを同期させるさまざまな方法があります。 データベースレベルでは、<u>シャドーイング</u>または<u>ミラーリング</u>を使用できます。

これは非常によく機能し、データの一部分だけを同期する必要がある場合には、 <u>グローバルマッピング</u>を使用してより小さなピースにデータを分割することができます。 または、クラス/テーブルレベルで双方向の同 期が必要な場合には、<u>オブジェクト同期機能</u>を使用することができます。

これらすべての優れた機能には次のような制限があります。 Caché/IRISからCaché/IRISにしか機能しません。

外部のデータベースにデータを同期する必要がある場合には、ほかのソリューションが必要です。

このソリューションは、かなり以前からCaché/IRISに提供されており、非常に良く機能します。 [^OBJ.DSTIME](https://docs.intersystems.com/ens20181j/csp/docbook/DocBook.UI.Page.cls?...)で解決です。

これは、Deep Seeとのデータ同期を可能にするために構築されました。 Modified,New,Deleted

をシグナルすることで、オブジェクト/テーブルの変更に関する非常に単純なジャーナルを維持します。 これはDeep Seeだけでなく、あらゆる種類のデータ同期でも有用です。

グローバル ^OBJ.DSTIMEにはこのほかに2つの機能があります。

- 永続クラスの%SYSTEM.DSTIME
 にラップされているため、通常のSQLテーブルとして変更を選択するために使用することもできます。
- 同期されたジャンクの制御を可能にするバージョンID (DSTIMEという名前) を維持します。 最後のバージョンをフェッチする バージョンを増加する フェッチされたバージョンに基づいて、必要な場所に変更をアップロードする

純粋なSQLで同期を行う場合、SQLを理解するあらゆるデータベースをターゲットとすることができます。

クラス %SYSTEM.DSTIME を拡張して、<u>こちらに例</u>を置きました。SAMPLESで試すことができます。

#データベース #分散データ管理 #相互運用性 #Caché #Ensemble #InterSystems IRIS #Open Exchange InterSystems Open Exchangeで関連アプリケーションを確認してください

DSTIMEでデータを同期する

Published on InterSystems Developer Community (https://community.intersystems.com)

	_			
\ /	_ 7	ı	RI	

Y-XURL: https://jp.community.intersystems.com/post/dstime%E3%81%A7%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%82%BF%E3%82%BF%E3%882%BF%E3%882%BF%E3%8888